

# 平成 29 年度 事業報告書

社会福祉法人 落穂会

## 1 評議員会・理事会の開催及び監事監査実施について

29年 5月 監事監査

あさひが丘学園会議室

\* 監事二人による平成 28 年度の本部並びに施設の運営状況及び会計経理についての監査実施

29年 5月 第 1 回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

\* 平成 28 年度法人本部及び各施設の事業報告について

\* 平成 28 年度法人本部及び各拠点区分の決算並びに監事監査報告について

\* 給与規程の変更について

\* あさひが丘学園 臨時賞与について

\* 新役員案について

\* シュバル車両購入に伴う指名競争入札及び入札日時、指名業者の選考について

\* 育児・介護休業等に関する規程及び地域生活支援センターあさひが丘就業規則の変更について

\* 定時評議員会の招集について

29年 6月 第 1 回評議員会及び第 2 回理事会の開催及び審議事項

パレスイン鹿児島会議室

\* 平成 28 年度法人本部及び各施設の事業報告について

\* 平成 28 年度法人本部及び各拠点区分の決算並びに監事監査報告について

\* 新役員の選任について

\* 役員及び評議員の報酬等支給基準について

\* 理事長の選任について

\* シュバル車両購入落札業者との物品売買契約について

29年 8月 第 3 回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

\* 経理規程の変更について

\* 社会福祉法人落穂会定款細則の変更について

\* あさひが丘学園機能訓練棟耐震補強他工事について

\* あさひが丘学園本館・成人棟外壁改修他工事について

\* あさひが丘学園進入路舗装工事について

- \*平成30年度障害者福祉施設等施設整備費補助金申込について
- \*各拠点区分の補正予算について

29年 8月 第4回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \*あさひが丘学園機能訓練棟耐震補強他工事について
- \*あさひが丘学園本館・成人棟外壁改修他工事について

29年12月 第5回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \*経理規程の変更について
- \*パートタイマー就業規則の変更について
- \*グループホームあさひが丘の建設予定地の土地取得について
- \*旭福祉センター及び第二旭福祉センターの事業変更及び事業廃止、それに伴う運営規程の変更について
- \*育児・介護休業等に関する規程の変更について
- \*社会福祉法人 落穂会 中間決算報告について
- \*各拠点区分の補正予算について

30年 3月 第6回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- \*平成29年度各サービス区分の補正予算について
- \*経理規程の変更について
- \*平成30年度法人本部・各施設の事業計画並びに各拠点区分の当初予算について
- \*就業規則の変更について
- \*給与規程の変更について
- \*昇給規程の変更について
- \*平成30年度賞与支給月数について
- \*外部利用型指定共同生活援助事業所に係る受託居宅介護サービスの提供に係る委託契約の件について
- \*事業所の運営規程の変更について
- \*施設長の定年延長について

# 平成29年度事業報告

障害児入所施設あさひが丘学園  
障害者支援施設あさひが丘  
地域生活支援センターあさひが丘  
ガーデンキッズセルク・トリア  
あさひが丘乗馬倶楽部シュバル

最重点目標ならびに重点目標については、各目標の達成度について評価する。

評価	S	A	B	C	D
達成度	9割以上	7割程度	5割程度	3割程度	1割程度

## 1. 平成29年度の最重点目標に対する報告

### (1) 地域貢献活動

【評価：A】

#### ① 身近な地域との関係づくり

学園前のごみ集積所にゴミが散乱している時は、すぐに清掃を行い、近隣住民とのコミュニケーションに繋がると共に感謝の言葉があった。春山地区棒踊り保存会への参加を通じて名前呼び合える関係の第一歩となり、月2回の定期的な交流の中から秋まつりへも出演してもらうことに繋がった。棒踊り参加職員は名前でも呼んでもらえるような関係性が構築できたが、利用者はまだ覚えてもらえていないため、今後も引き続き、関係性の構築に努めていく。12月、グループホーム四郎丸にて地域の常会を開くことができた。今後は地域の状況に応じて利用してもらえるよう働きかけを行う。ワークショップも外部法人との共同企画を実施し、新たな繋がりがあった。皆与志サンデーへの訪問はなく情報収集に繋がらなかったため、民生委員との連携も含めて課題として残った。

#### ② 社会生活を営むことに困難を抱えている人たちへの支援

NPO法人と協働し、ホームレス生活者及びホームレス生活者となるおそれのある者の自立支援を行うことや住宅確保要配慮者に対して連帯保証提供事業等を行い、社会復帰、住宅の確保等、利用者が社会的に孤立することなく豊かな人間関係とつながりを保ちながら地域で安心して暮らせるよう支援を行った。

### (2) 上質で快適な生活

【評価：B】

#### ① 生活環境について

快適な生活が送れるように、季節に応じた寝具を揃えたり、衣類を入れ替えたり、部屋の模様替えや適時本人が希望するベッドやソファ等を購入し、他の利用者と同じではなく、本人の好みに合わせた空間づくりを行う事ができた。部署によっては、利用者のニーズに応じた落ち着ける空間づくりに努めたが、あまり成果が出せず、工夫・改善の余地がある。成人部の中庭においては、外壁等補修工事のため取り組みは延期している。

## ② 食事について

適時・適温や季節にあった食事提供に努めたが、配膳状況は食事開始時間の遅れなどにより料理が冷めてから食事を摂る事もあった。グループホームでは、利用者が一斉に温かいものを食事できるよう努めた。調理するメニューによっては、時間のかかるときもあり、今後は調理できたものを順次摂れるような工夫が必要である。児童部入所では、毎食各ユニットでご飯を炊き温かい食事の提供や定期的に食材を購入し料理を作る経験を積むこともできた。

成人部では、摂食チーム会議を定期的に開催し、全入所利用者の食事カルテを作成、栄養面・食事の摂り方、食環境の見直しを行った。食事カルテの精度や情報共有、食事環境の見直しについては課題がある。

## ③ 衣類について

季節にあった衣類の着用、清潔感など身だしなみに気を配り、季節ごとに切り替えが難しい利用者へも、何度も働きかけ、TPOにあった衣類着用ができるよう支援したが、確認もれ等があった。衣類購入は、個別外出やインターネット等を利用し、利用者の趣向に応じたものの提供に努めた。

## 2. 平成29年度の重点目標に対する報告

### (1) 組織間連携の充実を図る

【評価：B】

(あさひが丘学園)

- ① 情報共有について、事業所間だけではなくチーム単位においてもデスクネットでの発信・共有を心掛けた。部門間においても、主任を中心に日常からコミュニケーションをとることを心掛け、決定事項を確認する意識は根付いてきた。

要点を復唱することに関しては、毎回徹底が出来ておらず、意図が伝わっていないこともあった為、今後も継続した取り組みを行う。

### ②③共通

各種会議の行い方については運営委員会で具体的な提案を行い各部門に応じた取り組みを行うことができた。特に各種会議で決定事項の確認や進捗状況の確認を取り入れる事が徹底されてきており、指示を出す側、受ける側共に意識改善に繋がった。会議の工夫については意識している職員が多く、時間短縮や質の検討を行いながら、効率よく質の高い会議になる為の工夫が進められている。事例検討会議では、開催方法を工夫し活発な意見交換が行われるようになった。

職員の参画については意識に差があり、意識統一を図る為の取り組みを検討する必要がある。

(地域生活支援センター)

- ① チームミーティング等で情報の共有を図っていたが、決定事項が明確になっていないことや保護者からの伝達事項がチーム内で共有されていないことがあった。繰り返し伝える事や、受け手の復唱等が徹底されていないことが要因と思われるため、メモの活用など具体的な方法を整理し実施する必要がある。

- ② 会議の質の向上については課題が残った。部署によっては、活発な意見が出た会議もあったが、進行など会議の進め方、目的が明確になっていない議案もあったため平成30年度以降も会議の質の向上を図る為、事前の準備等、各統括主任と協議し円滑

な会議運営に努める必要がある。

- ③ 年度当初、決定事項を明確にしていないことがあり、記録等について確認を行った。また、決定事項についても、実施されていないことや継続して取り組めていない事項もあった。決定事項を確実に継続して実施するため、会議後の記録回覧や随時、決定事項の確認を行う必要がある。

## (2) 人材育成の充実を図る

【評価：B】

- ① 自ら考えて行動できる職員を育成するために、行動指針マニュアルの作成に取り組み職員必携書として12月に完成させた。今後はチーム会議等で活用し、職員への周知を行う必要がある。
- ② チューターと新任職員の関わりについて、業務上の相談は行っているが、日頃から気軽な相談相手としての関わりは十分でない部分があった。新任職員が職場環境に慣れるようなチューターの関わりができるように更に工夫が必要である。  
年度途中の採用職員については、4月に12名を対象とし職場への定着を図るとともに、より働きやすい職場環境充実の為に事前アンケートを活用した研修をおこなった。
- ③ 事業所説明会は自らの事業者をより深く理解するために主にチーフが担当して実施し有効な機会となった。制度に基づく事業内容の理解については更に理解を深める必要性があった。
- ④ 事例検討会議では、柔軟な発想で活発な意見交換ができるように手順や方法を変えたことで活性化され、一定の成果があった。会議の進め方が今後のポイントである。DVD視聴会は年間89名が参加したが、後半は参加者が限られていたので実施方法の改善が必要である。

## (3) 職場環境の充実を図る

【評価：A】

- ① 職員の自発的な提案を吸い上げる仕組み自体は作ることができなかったが、チーム会議や運営委員会等の会議の中で改善事項の提案が増えてきている。
- ② 職員1人あたりの年次有給休暇取得日数は平均11.3日となり、目標の年10日以上を達成することができた。また、全職員が年1回以上6連休もしくは4連休を2回以上取得した。
- ③ 平成29年度も、全職員（正職員・非常勤職員）167名との個別面談を行った。各職員と話をすることで、「仕事が楽しい」「働きやすい職場である」という意見も多数あったが、職場での人間関係の悩みや仕事以外の話も聴き、必要に応じてアドバイスも行った。職員からの業務改善への提案等もあり実践可能なことから早速取り組む事もできた。

## (4) リスクマネジメントへの取り組みを強化する

【評価：B】

- ① 事故防止マニュアルについては、各事業所で必要に応じて更新を行った。地域生活支援センターではマニュアル集を追加し、地域センター1階ホールに設置。ガーデンキッズでは防犯対策マニュアル、非常災害対策マニュアルの作成を行った。その他のマニュアルについてもガーデンキッズ用に改訂し、順次作成を行っていく。  
備蓄品管理については、防火管理責任者、管理栄養士、防災委員会が連携し必要備

蓄品の管理を行った。平成30年度は防災訓練の中で、調理委託業者（東臣）、管理栄養士と連携を図り備蓄品を使用した食事提供を実際に実施する。ガーデンキッズについては、避難時に持参する非常用リュックを準備した。備蓄品等の準備については、必要に応じて検討を行う。

- ③ 地区会長の連絡先を緊急連絡網に記載した。地域との連携については災害時に施設が地域の中でどのような役割を担っていくかは今後具体的に検討する必要がある。ガーデンキッズセルクでは、マルヤガーデンズ主催の避難訓練に年2回参加し、商業施設における避難時の対応について連携を図っている。トリアでは、近隣店舗との合同避難訓練等は実施していないが、同フロアの共用消火器の場所等、共通理解を図っている。

#### (5) 地域社会に向けての取り組みの充実を図る

【評価：B】

- ① 児童発達支援センター歩路において公開療育を12月に開催し、鹿児島市の行政関係、児童発達支援事業所保育士等の参加者17名が歩路の療育見学後意見交換を行った。また、近隣の幼稚園・保育園等への啓発活動の一環として7月6日に行った幼保連絡研修会では、50名以上の参加者があり、併行通園児の情報共有の場としても役立てられた。児童発達支援事業所研修会（5月と11月の2回開催）は会場を地域センターとマルヤガーデンズの2か所で行ったことで、総数27名の参加があり、児童発達支援センターとして地域の療育機関の質の向上に向け、一定の役割を果たすことができた。今後は小学校との連絡会も実施予定である。
- ② 秋まつりを開催し、来場者も4回目にして1000名を超えた。また、これまでの地域団体出演者に加え、今年度新たに立ち上がった春山地区棒踊り保存会の舞台出演及び地域の方の販売コーナーを設置し、交流を深めた。
- ③ サポーター制度の登録手順は簡略化したが、申込者が増加する効果はなく、行事やワークショップ参加者へ配るのみであった。地域センターからサポーター制度の登録はなく、来所への働きかけも弱かったこともサポーターが増えない要因のひとつと感じる。ポスターの掲示のみにせず、見学者等への紹介も随時行っていく。また、活動実態としては保護者ボランティアやワークショップ講師に留まっており、引き続き課題として残った。
- ④ 新たに完成したパンフレットを活用し、広報活動に努めた。また、児童版のパンフレット作成にも取り掛かったが、作成業者の問題により、完成しなかった為、業者の変更を行い、来年度完成予定である。
- ⑤ ホームページによるお知らせ70件、インスタグラムの投稿54件とタイムリーな情報発信を行うよう努めた。年度当初はタイムリーさにかけることもあったが、内容については、情報公開、施設の取り組み、行事お知らせ、活動紹介など多岐にわたった。あさひやに関しては、2月頃よりインスタグラムを立ち上げ、ギャラリーや作品のアップを展開したが、さらに認知度を上げ、あさひが丘に興味を持ってもらえるような情報発信としての企画・活用を目指す。

#### (6) 新事業の円滑な運営と新たな事業展開のための施設整備を行う

【評価：A】

- ① グループホームももかの老朽化に伴い、緑丘団地に新築された住居と賃貸借契約を結び、平成29年3月に移転、同年4月より円滑に運営を行っている。

- ② 新たなグループホーム2棟（定員各7名、計14名）の建設計画を策定し、鹿児島市を通じて国に施設整備補助金申請を行った。
- ③ 教育棟の耐震補強工事及び改修工事は平成29年5月に竣工、また教育棟前道路舗装工事は平成29年8月に竣工した。
- ④ 成人棟及び旧児童棟（現成人部3寮）の外壁等補修工事は平成30年3月に竣工した。
- ⑤ 機能訓練棟の耐震診断を実施した結果、一部耐震基準を満たしていないことが判明したため、耐震補強工事を実施し、平成30年2月に竣工した。
- ⑥ 新たな作業棟の建設について、日中活動体制を含めた検討を行うことができなかった。

#### （7） 利用者の権利擁護の取り組みを推進する

【評価：C】

- ① 成年後見人制度について、司法書士と連携を図りながら利用者・家族へ案内と個別の相談を受け、利用促進に取り組むことができた。今年度は、グループホーム利用者1名の後見人が選任され、施設入所利用者3名の申立手続きをおこなった。
- ② 各事業所に虐待防止マネージャーを配置し、人権侵害チェックリスト等を活用し、人権侵害防止に努めた。適切でない呼び方をしてしまった時、排泄や着脱支援時などプライバシーへの配慮が欠けている場面等、不適切な対応については、職員間で指摘し合い、どのような対応が良いか確認する事で、人権擁護への意識を高められるように努めた。
- ③ 利用状況や引継ぎ時等、個別面談など丁寧に対応し、状況把握に努めることで、児童虐待や障害者虐待の早期発見に努めた。成人部入所で支援員から利用者への不適切な対応が発覚し、速やかに状況確認と要因分析を行い、再発防止策を立て再発防止に努めた。人権侵害チェックリストや人権に関する園内研修の実施、支援困難事例の支援方法の見直し等の再発防止策と合わせて、定期的に支援状況の振り返りを行い、人権擁護の意識を高める取り組みを継続して行っている。

### 3. 通常の事業内容に対する報告

#### 【障害児入所施設あさひが丘学園・障害者支援施設あさひが丘】

##### （1） 個別支援計画の作成

利用者の年齢に応じたより良い個別支援計画作成を行う為に外部講師によるテーマ別研修を年3回実施した。特に利用者のストレングスに注目した支援計画の作成とそれを達成するための目標設定の有り方や効果的なモニタリングの方法について学んだ。また、より適切に支援計画を作成、実践できるように個別支援計画書式の見直しを行った。

##### （2） 日常生活支援

児童部では、小規模ユニットケアが平成28年7月から開始され環境が変わったことで家庭的な雰囲気の中で日常生活支援、健康管理においても、細やかな対応が行えるようになった。

成人部では、利用者の日課や支援員の動線の見直し、職員配置などを状況に応じて変更・調整することで、細やかな日常生活支援の提供を行った。栄養ケアマネジメントの記載内容の見直しを行うことで、より栄養ケアに関する支援内容と実施状況を分かりやすく情報を整理する事ができ、利用者の栄養ケア状況の理解を深める事が出来た。摂食

チーム会議や健康管理給食委員会で意見交換を行い、食事環境・食事の充実を図ることで一定の成果が出ている。

### (3) 日中活動支援（生活介護事業）

日中1科においては蹄鉄と馬糞堆肥、2科は利用者の絵を生かした販売品作成、3科におけるレザークラフトの充実、4科のリハビリプログラムの更新等、それぞれの科の特徴に応じた新たな活動展開がなされた。活動参観や余暇活動、外部講師のプログラムも予定通り実施できた。活動場所でのワークショップも予定通り開催できたが、すべてにおいてマンネリ化しないよう常に新しい何かを生み出す努力を今後も継続していく。

### (4) 余暇活動支援

（児童部）小規模ユニットケアとなり、各ユニットで利用者の要望や希望に沿った活動を提供することができた。少人数のグループとなり、より充実した余暇が実施できた。新たな取り組みとして放課後活動への参加や球技大会、コンクール等への参加も積極的に行った。

（成人部）学園行事や生活介護の中でワンデイ外出・ランチ外出・日中活動全体外出、個別外出など、計画的に実施し、余暇活動を提供することができた。平日の余暇支援については、個人の趣味趣向を取り入れながら環境調整を行うなど、更なる工夫の余地がある。余暇調査や意見箱の活用については、言葉で意見を伝えられる利用者も少ないことからニーズ把握の方法を見直す必要がある。

（日中科）日中活動においては、全員のランチ・ワンデイを実施し、その他の余暇についても各科ごとに取り組んだ。運動やリハビリも継続して実施できた。今後、バリエーションを広げ、さらに充実した取り組みに繋げていく必要がある。

### (5) 健康・衛生に関する支援

利用者の健康について、看護師、医療機関と連携し、病気や怪我等への対応を適切に行い、利用者の健康管理に努めた。健康診断の結果については、嘱託医や主治医に相談・指示を仰ぎ、必要に応じて他の医療機関へ引継ぎ検査・検診を受けて対応した。35歳以上は、胃リスク検査、前立腺がん検査、便潜血検査などを実施し、また胃リスク検査などについては医療機関の協力を得ながら、利用者・家族の希望により検査ができる体制を整えることができた。

### (6) 地域生活支援

短期入所について、年間の日当たりの平均利用数は、児童部が1～2名で年712件の受け入れ、成人部が5～6名の受け入れで年2,250件の受け入れとなっており引き続き利用ニーズがある。また、児童部においては、昨年同様週末を中心に利用する利用者があり、児童発達支援を利用している利用者の定期的な受け入れも行っている。

### (7) 人権擁護活動

4月に全職員を対象に、「人権侵害ゼロへの誓い」への署名と施設内掲示を行い、また支援員を対象に人権侵害防止チェックリストを実施した。各事業所に虐待防止マネージャーを配置し、チーム会議や人権侵害防止に関する改善シート、人権擁護の園内研修等を活用し、人権擁護の取り組みを行った。人権侵害防止チェックリスト集計結果では、前年度と比較して全体的に改善傾向である成果がみられた一方で、現場では、ポータブルトイレの使用状況や利用者への不適切な対応等、改善を要する事象があった。



## (8) 自立生活支援

対象者の状態像に応じた移行支援を行った。内訳はグループホーム（1名）、家庭復帰（2名）である。その中でもグループホームへの移行者については、単身世帯であったが本人の意思のもと関係機関と連携を図り移行につなげた。今後、措置児童など更なる行政との連携が不可欠である。自立生活支援については、高等部入学時から特に学園での個別相談、学校での教育相談の機会を活用し、本人と家族の希望を聞きながら移行先について計画的に進める。

## 【地域生活支援センターあさひが丘】

### (1) 児童発達支援センター歩路

#### ○児童発達支援（歩路）

定員を 25 名に増員し、可能な限り利用希望があったこどもの受け入れを行い利用に繋げることができた。課題として個別支援計画の作成遅れや指導案の未作成等もあり改善に努めたが不十分な点もあるため、引き続き取り組む必要がある。また移行支援等も含め、療育の質の向上を図る必要もあるため臨床発達心理士や言語聴覚士、理学療法士からのアドバイスを療育に活かすことや幼稚園・保育園との連携強化も継続して取り組む必要がある。

#### ○放課後等デイサービス（我路・シュバル）

我路・シュバルで連携を図り、利用者の受け入れを行った。小学部の利用希望が増えたことで持たせ忘れ・間違いや伝達ミスがあった事や活動提供時間にも課題があり、持たせ忘れや活動時間の確保について改善策を検討し実施している。平成 30 年度から活動時間を延長してサービスを提供する。

#### ○保育所等訪問支援（歩路・我路・シュバル）

保育所等訪問については、保護者の要望に応じて実施することができたが、我路・シュバルにおいては、我路チーフがほとんどのケースを担当しており、活動時間の確保が難しかった為、平成 30 年度は、クラス担任を中心に実施できるよう人材育成に取り組む必要がある。

### (2) ワークショップあすもね（就労継続支援 B 型・生活介護）

平成 29 年度の平均工賃は 20,628 円で、平成 29 年度の目標平均工賃 17,000 円を超えることができた。鹿児島県の平均工賃は 15,239 円（平成 28 年度）。

新規作業種 1 件を加えて工賃の向上に取り組めたが、今後は地域との関係性を考慮しながら一般就労に向けた取り組みが必要である。

生活介護では、作業室をパーテーションで区切り作業環境の整備を図った。利用者の状態に合わせて落ち着いて過ごせる空間の提供に努めた。今後も情緒面・健康面の支援を継続して行う必要がある。

### (3) ヘルパーステーションとわ

平成 29 年度利用件数

○居宅介護：654 件 ○行動援護：344 件 ○移動支援：344 件

利用者・保護者との信頼関係を構築し、利用者のニーズに可能な限りヘルパー調整を行った。新規契約は、居宅介護3名・行動援護2名・移動支援3名があった。

(4) グループホームあさひが丘（介護サービス包括型共同生活援助事業）

花梨（女性5名）・つばさ丸（男性5名）・くるみ（女性4名）・四郎丸（男性8名）ももか（女性6名）・とんぼ丸（男性8名）計36名

支援員一人一人が利用者の自己決定について意識し、働きかけられるようになってきた。また、ホームがある地域の行事や常会にも各ホームの担当支援員が積極的に参加し、「グループホーム四郎丸」では、常会の場としてリビングを提供することもできた。

地域の伝統芸能「棒踊り」については、支援員が練習に参加し、成果を発表することができ、名前でも呼んでもらえる関係ができた。今後は利用者の名前を知ってもらえるように、次年度も引き続き地域との関係作りに努める。

(5) あさひが丘相談支援センター

保護者、利用者の相談を受け、希望に沿ってサービス等利用計画の作成に努めた。又、新規利用者の作成についても可能な範囲で行うことができている。今後も利用者のニーズに沿った計画相談の対応ができるようチーム間で連携を図り、支援を行う。生活困窮者支援についても羽月相談支援専門員が出向し、厚い信頼を得ている。基幹相談支援センターへの委託業務については、次年度担当者に引継ぎが済んでいる。

**【ガーデンキッズセルク・トリア】**

(1) ガーデンキッズセルク

今年度、児童発達支援事業利用率94%（対前年比101%）、保育所等訪問支援事業69件（対前年比147%）の実績であった。家庭状況、発達段階に応じて母子通園から単独通園、一般保育施策への移行支援、ペアレント・プログラム、個別面談等の実施を行った。また、マルヤガーデンズ主催の「ラグビー教室」や「ハロウィンイベント」へ参加する等、商業施設内の一店舗として年間を通して連携を図っている。

(2) ガーデンキッズトリア

放課後等デイサービスの土曜利用希望者増加の為、今年度より土曜は放課後等デイサービスのみ運営とした。今年度、児童発達支援利用率116%（対前年比118%）、放課後等デイサービス利用率60%（対前年比115%）、保育所等訪問支援47件（対前年比134%）の実績であった。児童発達支援、放課後等デイサービス共にガイドライン評価を実施し結果の公表を行った。また、公開療育の実施により療育の質の向上、地域連携を図っている。

**【あさひが丘乗馬倶楽部 シュバル】**

保育所等訪問については、保護者の要望に応じて実施することができたが、我路・シュバルにおいては、我路チーフがほとんどのケースを担当していたため、平成30年度は、クラス担任を中心に実施できるよう人材育成に取り組む必要がある。

## 4. その他の事業報告

### (1) 職員研修・資格取得等

#### ①園内研修

月	テーマ	担当
4月	別支援計画について	支援課長：八反田憲治
5月	安全運転について	統括主任：前田卓 (安全運転管理者)
6月	「ペアレントトレーニングについて」	統括副施設長： 水流かおる
7月	実践報告 ①「小規模グループケア実践報告」 ②「N. Yくんの発達段階に応じた支援」	①児童部統括主任 木場明典 ②歩路：岩松昌和
8月	「食育について」～食べるということ～	管理栄養士：宍野和美
9月	実践報告 ①「S.M.さんに寄りそう支援を行うことで気づいたこと」 ②「地域の中で暮らす私たちの役割」	①成人部：前村 幸 ②グループホーム： 長濱 祥久
10月	①「インフルエンザ感染症について」 ②「感染性胃腸炎について」～ノロウイルスを中心に～	①看護師：三浦由紀子 ②看護師：佐野奈保子
11月	「防災について」	防火管理者：宇都裕也
12月	職員必携書 「共生と共創について」	理事長：水流純大
1月	実践報告 ①「園芸療法への取り組み」 ②「環境（人・経験・空間）が変える子どもたちの未来」	①日中1科：福留望美 ②児童部：前田葵・ 中林未穂子
2月	「人権擁護について」	統括主任：今別府望
3月	「障害者制度について」	理事長：水流純大

#### ②テーマ別研修

6月	つなぐ、紡ぐ支援をめざして～児童期における個別支援計画はどうあるべきか？【再考】～	社会福祉法人 幸 Pius はる 施設長 嘉ノ海 令子 氏
9月	個別支援計画の実践とモニタリング ～厚労省サービス管理責任者指導者養成研修資料から引用～	(社福)藤沢育成会湘南ゆう き村施設長・相談支援プラザ 所長 河原 雄一 氏
H30 1月	「障害児入所施設における子どもたちへの支援の在り方について」	品川区立品川児童学園 施設長 光真坊 浩史 氏

#### ③外部研修

九州地区知的障害施設職員研修会をはじめとする計41回の外部研修会に延べ187人の職員を派遣した。月例職員会議において参加職員の研修報告を行い、また、研修報告書を各部署に配布し研修内容の共有化に努めた。

#### ④通信教育・資格取得

平成 29 年度は知的障害援助専門員通信教育を 3 名の職員が受講し、知的障害援助専門員資格を取得した。全職員の資格取得状況は以下のとおりである。

【有資格者数】（平成 30 年 4 月 1 日現在）

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
社会福祉士	9	ホームヘルパー	28	知的障害援助専門員	16
介護福祉士	25	介護支援専門員	3	知的障害福祉士	13
保育士	65	看護師	3	社会福祉主事	32
管理栄養士	1	理学療法士	1	強度行動障害従事者養成	23
臨床発達心理士	1	言語聴覚士	2	精神保健福祉士	1
相談支援専門員	11	サービス管理責任者	22	乗馬インストラクター	2

## （2）実習・研修の受け入れ

下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 14 名（大学 2 校・短大 1 校・専門学校 1 校）
- ② 社会福祉士実習 3 名（大学 1 校・専門学校 2 校）
- ③ 介護福祉士実習 3 名（高校 1 校）
- ④ 福祉体験実習 53 名（高校 1 校・中学校 1 校）
- ⑤ 臨床実習 39 名（専門学校 1 校）
- ⑥ 介護等体験実習 0 名
- ⑦ 特別支援学校現場実習 16 名（2 校）
- ⑧ 外部職員研修 70 名（9 施設・1 機関・1 学校）

## （3）各サービスの利用実績（別紙参照）

### 【各サービス実績の単位】

- ① 児童部・成人部（各月初日の入所者数）
- ② 短期入所・グループホーム（日数）
- ③ 生活介護・児童発達支援・放課後デイ・保育所等訪問支援・就労 B・相談支援（件数）
- ④ 居宅介護・行動援護・移動支援・日中一時支援（時間数）

### 【各サービスの利用率・対前年比等】

- ① 児童部（契約入所）利用率 92.4% 新規入所 2 名 退所 1 名
- ② 成人部（入所）利用率 93.5% 新規入所 0 名 退所 1 名
- ③ 生活介護 利用率 107.5%
- ④ 短期入所 利用率 45.1% 対前年比 97%
- ⑤ 児童発達支援（歩路）利用率 103% 対前年比 108%
- ⑥ 児童発達支援（セルク）利用率 94% 対前年比 101%
- ⑦ 児童発達支援（トリア）利用率 116% 対前年比 118%
- ⑧ 放課後等デイサービス（我路）利用率 106% 対前年比 106%
- ⑨ 放課後等デイサービス（シュバル）利用率 123% 対前年比 596%
- ⑩ 放課後等デイサービス（ピッコロ）利用率 60% 対前年比 115%
- ⑪ 保育所等訪問支援（歩路）対前年比 249%
- ⑫ 保育所等訪問支援（セルク）対前年比 147%

- ⑬保育所等訪問支援(トリア) 対前年比 60%  
保育所等訪問支援(ピッコロ) 対前年比 200%  
保育所等訪問支援(シュバル) 対前年比 60%
- ⑭居宅介護 対前年比 109%
- ⑮行動援護 対前年比 110%
- ⑯移動支援 対前年比 99%
- ⑰日中一時支援 対前年比 94%
- ⑱就労継続B 利用率 87% 対前年比 87%  
生活介護 利用率 107% 対前年比 なし
- ⑲グループホーム 利用率 99% 対前年比 106%

(4) 各サービスの利用契約数 (別紙参照)

## (3) 各サービスの利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童部 (契約)	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	61
児童部 (措置)	21	22	22	23	23	23	22	22	23	23	23	23	270
成人部 (入所)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	49	599
生活介護	1,821	1,793	1,915	1,911	1,710	1,827	1,873	1,723	1,806	1,644	1,677	1,848	21,548
短期入所(児童)	39	48	63	67	67	59	69	64	56	52	50	78	712
短期入所(成人)	197	178	165	189	200	212	184	207	207	136	168	207	2,250
児童発達支援 (歩路)	447	512	541	514	527	500	601	509	579	489	490	589	6,298
児童発達支援 (セルク)	346	359	415	442	410	545	514	473	479	451	487	538	5,459
児童発達支援 (トリア)	194	200	268	264	247	246	278	224	242	223	204	251	2,841
放課後デイ (我路)	511	451	470	567	496	552	527	524	545	492	494	520	6,149
放課後デイ (トリア)	149	155	152	147	115	149	149	146	148	124	148	155	1,737
放課後デイ (シュバル)	354	365	402	363	378	370	369	372	374	350	352	391	4,440
居宅介護	63	64	70	54	60	58	63	54	64	48	56	56	710
行動援護	29	30	32	34	28	29	33	27	32	30	40	36	380
移動支援	29	30	32	32	36	24	32	38	33	26	32	34	378
日中一時支援	621	690	644	645	717	620	686	641	499	546	586	680	7,575
あすもね (就労B)	431	421	442	442	403	413	442	408	424	387	398	441	5,052
あすもね (生活介護)	135	135	138	140	129	130	142	122	135	126	125	159	1,616
グループホーム	1,079	1,103	1,073	1,115	1,085	1,078	1,116	1,080	1,094	1,084	1,002	1,113	13,022
計画相談(児童)	84	63	81	66	63	110	59	46	58	65	59	78	832
計画相談(成人)	30	28	21	18	20	38	23	22	12	19	31	35	297
保育所等訪問 (歩路・我路)	1	3	2	3	0	13	5	16	5	1	3	2	54
保育所等訪問 (シュバル)	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	4
保育所等訪問 (セルク)	8	5	8	9	0	9	6	8	7	3	2	4	69
保育所等訪問 (トリア)	0	1	0	0	0	1	0	1	5	0	1	0	9
保育所等訪問 (ピッコロ)	1	0	0	6	0	2	8	5	4	5	5	2	38

## (4) 各サービスの利用契約者数(平成30年4月1日現在)

サービス名	児童	成人	合計
入所(契約)	4	49	53
入所(措置)	22	/	22
入所小計	26	49	75
生活介護	/	98	98
生活介護(あすもね)	/	8	8
短期入所	135	119	254
居宅介護	0	31	31
行動援護	5	12	17
日中一時支援	84	88	172
移動支援	1	36	37
就労継続支援B型	/	27	27
児童発達支援(歩路)	58	/	58
児童発達支援(セルク)	65	/	65
児童発達支援(トリア)	26	/	26
放課後等デイサービス(我路)	116	/	116
放課後等デイサービス(シュバル)	72	/	72
放課後等デイサービス(ピッコロ)	58	/	58
保育所等訪問支援(歩路)	55	/	55
保育所等訪問支援(我路)	27	/	27
保育所等訪問支援(シュバル)	19	/	19
保育所等訪問支援(セルク)	40	/	40
保育所等訪問支援(トリア)	13	/	13
保育所等訪問支援(ピッコロ)	49	/	49
グループホーム	/	36	36
相談支援	299	156	455
在宅小計	1122	611	1733
合計	1148	660	1808

# 平成29年度 事業報告

旭福祉センター・第二旭福祉センター

## ■ 平成29年度の重点目標に対する事業経過報告

今年度は生活介護事業の人員の配置転換、並びに作業部門の一部再編を行った。重点課題としては、「より丁寧な声かけ」と「作業面の効率化と作業スキルの向上」を最重点課題と位置づけ、全職員で取り組むと同時に、中期的な展望での製販計画を立案、計画達成を目標に実践に努め、全作業班合算の売上計画は達成できた。その他にも以下に掲げる事項を重点目標とし、実践に努めた。

### 1. 利用者のニーズに合わせた支援の提供

29年3月に第二作業所(通称:竹工)の生活介護とB型の利用者及び職員配置の再編を行ったことに伴い、年度当初は多少の戸惑いも見られたが、作業班の体制も落ち着き、介護班も音楽療法などの生活介護カリキュラムを更に充実させ、利用者・家族からも一定の評価を得ることができた。それ以外の事業部門においては利用者の個別ニーズを作業・生活両面からの視点で的確に把握し、ニーズに合った短期目標・長期目標を支援計画に掲げ利用者支援の向上を図った。支援実践面における目標である「より丁寧な声かけ」の実践では、人権擁護委員会の主催によるグループディスカッション・利用者への声かけに関する聞き取り調査(H29.12月実施 児玉監事監修)等の活動により職員の意識も向上し、効果的な活動ができた。来年度以降も充実した支援体制を確立させるべく研鑽を重ねたい。

### 2. 人事管理制度の円滑な遂行

人事考課制度を職員の資質向上に繋げることに主眼を置き、「新人事制度の円滑な遂行」・「考課者の基準の統一」の2つを目標に掲げ、人事考課を実施した。今後更に考課者の評価基準の統一と徹底を図っていききたい。

### 3. 職場環境の改善

利用者送迎において市営バス等の時刻変更に伴い早出出勤が常態化している実態が判明、送迎勤務者を雇用し、現状の是正を行った。

### 4. 職場環境の充実

今年度の職員一人あたりの年次有給休暇取得日数は、平均9.65日(年間取得率65.9%)となった。ただ、リフレッシュ休暇(29年度現在 年4日が目標)の取得率が78.7%と目標に到達できなかった。また、チューター制度では9組のペア体制をとり、チューターになる職員に対する研修も行い、業務内容の悩みやその他の疑問解消などに効果が見られた。



## 5. 支援委員会・業務改善委員会の円滑な運営を実施

### ① 支援委員会

- 〔生活委員会〕入所利用者の居室環境の改善及び支援体制の整備策として、今年度は居室環境に関わるチェック表などの見直しや、チェックを行う職員の支援体制の見直しを重点的に行ない、より良い環境づくりに努めた。
- 〔地域委員会〕各行事の円滑な運営を目標に早目の計画と準備に取り組んだ。(各種バザー・マルシェ等への参加24件：うち新規出店 緑ヶ丘あさ市など2件)そのほか、広報活動と売上の向上に努めた。また、利用者の余暇・外出計画(買い物外出2回・利用者同士の外出(毎月1回程度)・宿泊キャンプ・新年会・忘年会・日帰り旅行など)を企画・実施し、余暇の充実を図った
- 〔作業委員会〕全車両(22台)にドライブレコーダーを取り付け、安全運転講習などを職員に実施、安全な運転技術の向上に務めた。利用者の毎月の工賃及び、12月と3月の賞与について見直しを行った。また、新人育成シートの運用を推進、炊事班(味噌作業)を除く全ての作業班でシート運用を統括、育成面において効果を上げた。
- 〔職場改善委員会〕朝礼や職員会議での啓発活動(挨拶・服装・利用者の呼称についてなど)を実施、職場内の意識向上を図った。また、職員行動チェックリストを定期的に活用し、部下の育成とコミュニケーションの向上を図った。
- 〔人権擁護委員会〕研修会3回、グループディスカッション1回、虐待防止チェックリストの活用2回を開催し、虐待行為の防止 並びに意識向上の機会を作った。
- 〔地域貢献委員会〕昨年度は4回の会議を開催した。町内会・近隣住民との関係強化を目標として掲げ、3班の班会を今年度より当センター内で行うことになった。今後、10班の班会開催も呼びかける予定である。全職員へ挨拶や活発なコミュニケーションの周知を図るとともに、地域行事には積極的に利用者と職員とが参加し交流を深めた。新しい試みとして、餅つき大会では隣接する7家族、1企業に参加を呼びかけ、平日の開催にもかかわらず4家族、6名の地域の方々に参加していただいた。
- 〔活性化委員会〕朝礼の方法を検討し、一部変更を行った。また、管理職会議での決議内容や検討事項を各部署に円滑に伝達することに努め、情報共有力の向上とチーム意識の向上に努めた。

### ② 業務改善委員会

- 〔センターふれあいバザー実行委員会〕11月19日に実施(52回目の開催)天候にも恵まれ1,200名近くのお客様に来園していただいた。尚、来年度からは単独開催の11月バザーに加え、4月の三施設合同バザーも当事業所敷地内での開催に変更となるため、実行委員会を早期に立ち上げ万全の体制で臨みたい。
- 〔入所・グループホーム旅行委員会、行事B委員会〕今年度は入所者28名が3チームに分かれ1泊2日の宿泊旅行(長崎、宮崎)を実施。利用者の要望を積極的に取り入れ、好評であった。また、通所利用者も含めた日帰り旅行は4日間、14チームに分かれて県内各所を観光、こちらも利用者の要望を取り入れ、大変好評であった。

## 6. 各作業部門の状況

### 作業の効率化と職員の作業スキル向上

作業の効率化と職員の作業スキル向上(3～5年の計画 2年目)を作業部門全体の重点課題として掲げ、作業班ごとに育成シートによるスキル向上に取り組むと同時に、中期的な展望での製販計画に沿った計画の達成を目標に掲げ、計画的な実践に努めた。尚、第二作業所ではこれまで建物設備の改修(重度利用者用のドア設置・簡易シャワーの設置等)を行ってきたが、現場の実情に合わせた設備改修がこれ以上は困難であると判断、第二作業所で行ってきた生活介護事業を30年6月より旭センター本体敷地内に移動し、事業を継続する予定である。

**蔬菜班**・・・売上計画は達成。作付面積を減らしたことで野菜管理・環境整備は少しずつ充実して

きている。重点目標である新人職員の育成については、まだまだ改善すべき課題が多い。

来期は、利用者支援の充実と地域の方との交流にも力を入れていく。

売上目標 4,170,000 実績 4,226,182 101.3%

**菓子班**・・・売上計画は未達成に終わる。SNS を活用した広報・宣伝の定期的な更新は出来たが、

課題でもあった販売体制の見直しや商品開発を計画的に行う事が出来なかったことが、

未達の大きな要因として挙げられる。今後は全体のスキルアップ向上の体制づくりと、課題として残った販売促進に向けた取り組みを行っていく。

売上目標 17,200,000 実績 16,179,086 94.1%

**カフェNODOKA**・・・売上計画を大幅に上回り達成する。広報・宣伝に少しずつ取り組めたことや

接客におけるスキル向上が、常連客を増やすことが出来た要因だと思われる。次年度も売

上達成を目標に宣伝・新メニュー開発に力を入れていく。

売上目標 5,750,000 実績 6,772,593 117.8%

**メンテナンス班**・・・日常清掃・定期清掃は安定して行えた。新規物件が増えたこともあり、売上計

画を達成することが出来た。しかし、育成シートを活用した人材育成が計画通りには実施出

来なかった。来期は早期の計画立案・実施を行い、計画達成を目指す。

売上目標 20,000,000 実績 21,055,636 105.3%

**味噌班**・・・積極的にバザーやイベント等で販売し、また社内販売に関しても声掛けを行った結果、

売上計画を達成する事が出来た。来期は広報・宣伝を活かして販路拡大に繋げ、安定した

生産体制が確立できるよう早めの計画を立てていく。

売上目標 1,320,000 実績 1,332,730 101.0%

**竹工班(軽作業)**・・・以前より課題として挙げられていた利用者の安全確保や設備等の充実につ

いては、徐々にだが改善・工夫がなされてきた。生産面に於いては安定した受注量を保持

できたが、今後は生活介護メンバーで取り組むことが可能な作業(工程を含む)の選別等が必要である。

売上目標 4,100,000 実績 4,319,601 105.4%

**陶芸班**・・・売上に関しては未達に終わる。今期はお客様ニーズに合わせ、器の形・釉薬の色などを改良、良い作品ができたと思う。商品開発に関しては、催し物などの見学を行ったことで創作意欲が高まり、製作・販売に繋げることが出来た。特に置物などは、催事ごとに作ることで今後更に期待がもてる。今後は各作業班への相談、協力を得ながら販路拡大・新商品の開発を行っていく。

売上目標 1,150,000 実績 921,709 80.1%

#### 平成 29 年度主要部門売上一覧

作業班	売上目標額	達成額	達成率
NODOKA	5,750,000	6,772,000	117.8%
楓 (菓子班)	17,200,000	16,179,000	94.1%
竹 工	4,100,000	4,319,000	105.4%
蔬 菜	4,170,000	4,226,000	101.3%
陶 芸	1,150,000	921,000	80.1%
メンテナンス	20,000,000	21,055,000	105.3%
味 噌	1,320,000	1,332,000	101%
合 計	53,690,000	54,804,000	102.1%

(※達成額 下三桁は切り捨て・主要な部門のみの集計データ)

#### 7. 就労移行に関する情報収集・強化

28年1月より就労移行を強化し、企業・職安・就職関連機関等を定期的に訪問、今年度は1名の利用者の就労を目標に掲げていたが、対象利用者の諸事情により達成は叶わず。翌30年度内に再度達成を目指す。

#### 8. グループホームの充実

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(25名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。

#### 9. 家族との連携強化(家族代表者委員会の活用)

家族代表者委員会では平成29年度 3回に渡って委員会を開催した。議題としては、29年度の三施設合同及び施設主催バザー(春、秋の2回)についての反省、家族会の役員のメンバー交代についての検討、30年度以降の家族ボランティアメンバー選定、障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行って情報の共有に努めた。また、毎年8月の家族総会、1月の新年会を行い、親睦を図った。

## 10. 職員研修の充実

施設内において年間27回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上及び、一般常識的な知識の向上に重点を置いた研修を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計58回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

## 11. 各種マニュアルの作成

各種マニュアル(事故防止、健康管理、各種作業、環境整備等)を修正し、マニュアル集を整備した。引き続き整備を行う予定である。

## 12. 福祉教育

29年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| ① 保育士実習      | 11名 (3校)           |
| ② 特別支援学校現場実習 | 8名 (3校)            |
| ③ 福祉学習受け入れ   | 92名 (1校) ※川上小学校4年生 |

# 旭福祉センター

## 第二旭福祉センター

### 年間行事の実施状況(平成29年度分)

区分	実施状況	参加人数	備考
4月	県授産施設協議会施設長会 施設親善球技大会打合せ 利用者胸部レントゲン 県知障協定例総会 落穂会・ゆうかりふれあいバザー 県ソーシャルワーカー協会理事会 施設球技大会 吉野兵六まつり	2名 1名 利用者 3名 職・利・保 1名 利用者 職員・利用者	県社会福祉センター 県社会福祉センター ゆうかり学園 サンロイヤルホテル ゆうかり学園 桜島岩谷グラウンド 吉野公園
5月	春休暇帰省 社福法人経営者セミナー 保育養成校共催施設実習連絡会 市地区施設職員親善球技大会実行委員会 パーベキョー大会 共同受注センター役員会 県青年経営者部会総会・研修会 県障害者スポーツ大会 落穂会監事監査 県ソーシャルワーカー協会講演会 市知的障害施設連絡協議会理事会	利用者 1名 1名 1名 利用者 1名 1名 職員・利用者 9名 2名	城山観光ホテル マリンパレス鹿児島 なごみ苑 旭センター 県社会福祉センター 県社会福祉センター 鴨池陸上競技場 あさひが丘学園 鹿児島国際大学 サンロイヤルホテル
6月	職員健康診断 視察見学 鹿児島国際大学実習 家族代表者委員会 市指導監査説明会 施設親善球技大会反省会 施設研修 九州地区施設研究会総会・研修会 15日～16日 知的障害者関係施設新任職員研修会 18日 川上校区あいご会ふれあいスポーツ大会 18日 施設職員親善球技大会 19日～30日 施設実習 施設見学 施設見学 正和会役員会 福祉フェスティバルよした 県授産・共同受注センター総会・理事会	職員 北星園4名 2名 職員・保護者 1名 1名 1名 1名 2名 職員 特別支援学校3名 ふるさと学園3名 1名 職員・利用者 2名	旭センター 旭センター 旭センター 旭センター 市民福祉プラザ サンロイヤルホテル 大分ソレイユホール レクストン鹿児島 サンロイヤルホテル 川上小学校 サンライトボウル他 旭センター 旭センター なごみ苑 吉田南中学校 県社会福祉センター
7月	県知事杯フットサル大会 福祉施設・事業所説明会 視察研修 全国知的障害関係施設長等会議	利用者 2名 牧之原養護保 50名 3名	ふれあいスポーツランド 鹿児島養護学校 旭センター 東京国際フォーラム

区分	実施状況	参加人数	備考
7月	串木野養護学校福祉施設等説明会 安全運転管理者講習会 共同受注センター総会 企業と福祉の連携促進面談会 指定障害福祉サービス集団指導 さんさん会総会・研修会 塚田神社六月灯 吉野地区福祉推進委員会 九州地区知的障害関係施設職員研修会 27日～28日 全国就労センター研究大会 27日 社福法人会計セミナー 27日 就業支援ネットワーク会議 29日～30日 キャンプ	1名 1名 1名 2名 3名 2名 職員・利用者 1名 3名 2名 1名 2名 職員・利用者 1名 職員・利用者 国際大1名 1名 1名 職員・保護者 利用者 1名 職員・利用者 国際大1名・鹿大1名 2名 1名 職員・利用者 国際大1名	串木野養護学校 市民文化ホール 県社会福祉センター 黎明館 市民福祉プラザ 教恵保育園 塚田神社 北部保健センター ニューオオタニ博多 神戸ポートピアホテル 城山観光ホテル はーと・ぱーく 県社会福祉センター ゆうかり学園 旭センター サンロイヤルホテル 吉野学園 旭センター 市民文化ホール 北埠頭ターミナル 旭センター はーと・ぱーく 鹿児島市町村自治会館 みどりが丘商店街 旭センター 県社会福祉センター 福岡エルガラホール 旭センター 城山観光ホテル 県社会福祉センター 旭センター サンロイヤルホテル 旭センター 旭センター 旭センター 旭センター 鹿児島国際大学 旭センター 市民福祉プラザ 宮崎方面 旭センター 名古屋国際会議場 宮崎方面
8月	共同受注役員会及び理事会 ゆうかり夏祭り 介護体験実習 福祉・保健医療職場ガイダンス 市地区ふれあいスポーツ大会実行委員会 通所説明会・家族代表者委員会 12～16日 夏休暇帰省 感染症講演会 サマーナイト花火大会 21日～25日 介護体験実習 地域移行支援・地域定着支援勉強会 21日 公正な採用選考のための研修会 23日 みどりが丘納涼夏祭り 26日 介護体験実習 28日～1日 食の安心・安全研修会	1名 職員・利用者 国際大1名 1名 1名 職員・保護者 利用者 1名 職員・利用者 国際大1名・鹿大1名 2名 1名 職員・利用者 国際大1名 2名 3名 鹿大1名 1名 1名 鹿大1名 2名 国際大10名 武岡台養護保12名 野の花学園3名 利用者 鹿大2名 1名 入所利用者 鹿大2名 4名 入所利用者	共同受注役員会及び理事会 ゆうかり夏祭り 介護体験実習 福祉・保健医療職場ガイダンス 市地区ふれあいスポーツ大会実行委員会 通所説明会・家族代表者委員会 夏休暇帰省 感染症講演会 サマーナイト花火大会 介護体験実習 地域移行支援・地域定着支援勉強会 公正な採用選考のための研修会 みどりが丘納涼夏祭り 介護体験実習 食の安心・安全研修会 パワーアップフォーラム 介護体験実習 鹿児島商工会議所会員の集い 共同受注センター理事会・専門委員会 11日～15日 介護体験実習 人権擁護研修 施設見学 施設見学 施設見学 施設見学 県知的障害者ふれあいスポーツ大会 18日～22日 施設見学 給食施設従事者研修会 23日～24日 宮崎旅行A班 25日～29日 介護体験実習 27日～28日 全国知的障害福祉関係職員研究大会 30日～1日 宮崎旅行B班
9月	パワーアップフォーラム 介護体験実習 鹿児島商工会議所会員の集い 共同受注センター理事会・専門委員会 11日～15日 介護体験実習 人権擁護研修 施設見学 施設見学 施設見学 施設見学 県知的障害者ふれあいスポーツ大会 18日～22日 施設見学 給食施設従事者研修会 23日～24日 宮崎旅行A班 25日～29日 介護体験実習 27日～28日 全国知的障害福祉関係職員研究大会 30日～1日 宮崎旅行B班	3名 鹿大1名 1名 1名 鹿大1名 2名 国際大10名 武岡台養護保12名 野の花学園3名 利用者 鹿大2名 1名 入所利用者 鹿大2名 4名 入所利用者	福岡エルガラホール 旭センター 城山観光ホテル 県社会福祉センター 旭センター サンロイヤルホテル 旭センター 旭センター 旭センター 鹿児島国際大学 旭センター 市民福祉プラザ 宮崎方面 旭センター 名古屋国際会議場 宮崎方面

